



ひうひうだより

No.9. 2025. 11. 28

私の生まれ育った家。想い出いっぱいの場所。「ただいま～」家に入ってぐるりと見回します。あ～、いつもの香り。そしてそこには父が生前撮影した数々の写真、母お気に入りのお座布団、母の字で予定がびっしり書きこまれたカレンダー、愛着ある鉄瓶・・・確かな応答はありませんが、ここにあってあたりまえのものたちが私を迎えてくれました。うっすらと埃をかぶったそのものたちが映しだす過去の景色は、私の心を温かさと懐かしさで溢れさせ、時に私は苦笑したり、ウルウルしたり、ひとしきり感謝したり。庭に目を移せば、そこにはこの夏に成長しすぎた草木たちが風に吹かれてざわざわとざわめいています。5月、認知症の母が病気で倒れ、一人暮らしに限界を感じた私は、母の生活拠点を施設に移すことにしました。60年近く共に暮らした主（あるじ）と離れて、本当に寂しがっているのは、この家なのかもしれません。

家の主（母）は、きれい好き。早朝から庭に出て草取り。部屋の中もきれいに整っています。ただ、認知が進んでからは、いろいろと困っていた様子。その形跡を目の当たりにして、15年間、一人で頑張っていた母に私は想いを寄せていました。

私の母って、周りのことを全く気にせずに、自分のペースで何でもやってしまう人。我がままといえばそうとも言えます。それに私はずっとイライラ。母に怒られないように、母を怒らせないように・・と気を遣うことが日常で、家を早く出たかったのもそんな母との時間が苦しかったから。恥ずかしながら、その頃の私は自分の不機嫌を母のせいにしていました。でも、それは大きな間違い！「母のせい」にするのではなく、「私の母はこういう人なんだよな～」って、まずは受け止めなくてはいけなかったのです。私が今、ぴっぴで温かく、みんなに受け止めていただいているように・・・・。この、受け止めてもらっているという安心感？喜び？が、私にとって未来に繋がる大いなるチカラになっています。ぴっぴのおかげです。みなさんのおかげです。私も母にそうしてあげたかった・・・

「母の」「母は」「母って」「母との」「母も」「母に」・・・・こんなに母のことを考えたことってありませんでした。会えば喧嘩ばかり。だから、母に会うことには勇氣が必要でした。でも、心のどこかではそんな母との関係をずっとなんとかしたかったのです。「母と向き合えてよかった！」「ハグができるようになってよかった！」「母の元に生まれてよかった！」・・・これまで自分に起こった出来事すべて（良きこともそうでないことも）が、ようやく私をこの想いに導いてくれました。

子どもはある使命をもって、自分の親を「この人」と決めて生まれてくるといいます。私はどんな想いでこの母を選び、その元に生まれてきたのだろうと、ふと考えました。生を受けたその瞬間に自分が何を抱いていたかは、今となってはわかりませんが、今、感じていることは「母を幸せにするために、この母から多くを学ぶために、この母の元に生まれてきた」ということ。これからは母と一緒に笑って「今、できること」「今、やりたいこと」をひとつひとつ積み重ねていきたいし、同時に、私自身の時間も大切に「今、できること」「今、やりたいこと」に挑戦し、納得のいく自分の人生を創りあげていきたい。そして、与えられた時間の中で、神様からお借りしている私のカラダ(空球)に、溢れんばかりにいろいろな感謝を詰め込んで、いずれ神様にこのカラダをお返ししたい。母の人生に触れながら、自分の人生を見つめ直しています。

さて、これから、母宛てに手紙を書きます。私と会っても、そのことをすぐ忘れてしまう今の母。私からのメッセージを手にすることで、母の記憶に何かが残れば嬉しいなあ～。私は、ほら、皆さんもご存じの通り、語ることがほんとうにへたくそ。それでも？だから？手紙を書くことは好きで、心にその相手を想い、便箋やハガキを選びます。文が拙くても、添えられている絵や写真はなにか相手の心に響きそうな、届きそうな気がするのです。

今、手にしているのは、先日のヒンナヒンナまつりで出会った明紗美さんのポストカード。柔らかな風のなか、優しい表情でどこか遠くを見つめているようなキリン。心に決めた一步をゆっくり踏み出そうとしている強ささえ感じます。

「お母さんへ」・・・・・

文字では伝えきれない私の想いが、最愛の母に届きますように・・・。

みなさま、いつもいつもありがとうございます。

ちょうこ

庭の恵みを食べよう遊ぼう楽しもうよ12月

木枯しとともに木々の葉がすっかり落ち、毎朝娘が“わあーきれいな紙髪！とさけんでいた庭の落ち葉たちも半畝の肥料へと眠りにつく頃になりました。すっきりとした冬の青空のもとカラマツの木をみあげると、かわいいミニバラのような形のカラマツボックリがいくつも枝についています。その横には美しい赤い実をつけたノイバラ。そしてカラマツの木の根元にはウバエリが…♪ となる。たらこの素敵で自然の贈り物を前にしてじっとしていらっしゃったくなり、こんなモビールをつけてみました。もうすぐクリスマスも近いのでモモリートとモミの葉を加えました。冬のお庭もたくさん楽しめます。→



おはせより

先日は、新米まつりで今年の実りをみなさんと味わうことができて、嬉しかったです!!

ここで、ひ、ひ、ひで育っているお米について…
“ササシグレ”という品種で、先祖にもち米系統の性質をもっていないため、粘りが少なく、あさりしている品種。アミロースが高く、アミロペクチンが低い、高アミロース米と言われています。そのため、血糖値が上がりにくい、米アレルギーの人か食べても症状が発症しにくいと言われます。かつての西の横綱ササニシキの一世代前の宮城県や東北のメイ品種(ササニシキのお父さん)。今では、作る人もごく少数で超めっく希少米、とのこと。さほりした中に、ほどよい粘りに控え目だけれどしつりとした甘さ、ゆとり噛むと旨味がじわっと味わえる。一般的にササシグレはササニシキ以上に作りづらい品種と言われている。病気に弱く、倒伏(やす)いという弱点があり、今までには限られた専業プロの農家だけが手掛けるお米です(ワオ!)。ササニシキも良食味として有名だったのですか、食味では親のササシグレを超えられなかった、という意見も。その名前は、伊達正宗が戦に勝った際に唄われた民謡「さんさ時雨」から名付けられたと言われている。…調べて書いてみますランチで食べること、お米ばかりが楽になりました!